

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2004-27477(P2004-27477A)

【公開日】平成16年1月29日(2004.1.29)

【年通号数】公開・登録公報2004-004

【出願番号】特願2003-355522(P2003-355522)

【国際特許分類第7版】

A 4 1 D 13/00

【F I】

A 4 1 D 13/00 G

【手続補正書】

【提出日】平成16年1月28日(2004.1.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

伸縮性を有し、身体に密着して着用される下肢部をサポートする少なくともウエストラインから踝の上方までの長さを有し、股部を有する被服であって、当該被服は比較的緊締力の強い伸縮性部を有し、前記比較的緊締力の強い伸縮性部が、人体の膝関節の内側側面の側副靭帯を実質的にカバーし、膝関節の上方においては、少なくとも大腿部の長さの1/2以上の長さを有し、縫工筋に沿って設けられている比較的緊締力の強い伸縮性部(A)を有し、

前記、比較的緊締力の強い伸縮性部(A)で表わされる部分が、人体の膝関節の内側側面の側副靭帯を実質的にカバーし、更に、膝蓋骨の人体内側側部側のほぼ周囲近辺に沿って少なくとも膝蓋骨の周囲のほぼ1/4以上を取り囲んでいて膝蓋骨の下側部分の少なくとも一部をカバーし、内側の腓腹筋及び/又はヒラメ筋の側方に至っており、膝関節上側においては、大腿部をその内側から前側を通り外側に向かってほぼ縫工筋に沿い更に大腿直筋のうちの上方部分を通り、大転子近傍に至っている比較的緊締力の強い伸縮性部(A1)であって、比較的緊締力の強い伸縮性部(A1)で表わされる部分が、更に大転子近傍から腸脛靭帯に沿ってウェスト近傍に至っている比較的緊締力の強い伸縮性部(A1-1)を有しており、

且つ、脚部を筒状に形成する被服本体の縫製ラインが、脚部の内側を通って膝関節の内側側面の側副靭帯上に存在する前記比較的緊締力の強い伸縮性部の少なくとも前記側副靭帯上の領域を避けて前記比較的緊締力の強い伸縮性部の一部の縁上を通る様に設計されていることを特徴とする下肢部サポート用被服。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

伸縮性を有し、身体に密着して着用される下肢部をサポートする少なくともウエストラインから踝の上方までの長さを有し、股部を有する被服であって、当該被服は比較的緊締力の強い伸縮性部を有し、前記比較的緊締力の強い伸縮性部が、人体の膝関節の内側側面の側副靭帯を実質的にカバーし、膝関節の上方においては、少なくとも大腿部の長さの1/

2 以上の長さを有し、縫工筋に沿って設けられている比較的緊締力の強い伸縮性部（A）を有し、

前記、比較的緊締力の強い伸縮性部（A）で表わされる部分が、人体の膝関節の内側側面の側副靱帯を実質的にカバーし、更に、膝蓋骨の人体内側側部側のほぼ周囲近辺に沿って少なくとも膝蓋骨の周囲のほぼ 1 / 4 以上を取り囲んでいて膝蓋骨の下側部分の少なくとも一部をカバーし、内側の腓腹筋及び / 又はヒラメ筋の側方に至っており、膝関節上側においては、大腿部をその内側から前側を通り外側に向かってほぼ縫工筋に沿い更に大腿直筋のうちの上方部分を通り、大転子近傍に至っている比較的緊締力の強い伸縮性部（A 1）であって、比較的緊締力の強い伸縮性部（A 1）で表わされる部分が、更に大転子近傍から腸脛靱帯に沿ってウェスト近傍に至っている比較的緊締力の強い伸縮性部（A 1-1）を有しております。

且つ、脚部を筒状に形成する被服本体の縫製ラインが、脚部の内側を通つて膝関節の内側側面の側副靱帯上に存在する前記比較的緊締力の強い伸縮性部の少なくとも前記側副靱帯上の領域を避けて前記比較的緊締力の強い伸縮性部の一部の縁上を通る様に設計されていることを特徴とする下肢部サポート用被服。